



- 永代共養墓について
- ぶつぶつ雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院News
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんが小坊主くん!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつムクイズ
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- ほほほのれしび
- ふしぎな密教法具
- 地図・アクセス
- サイトマップ

 検索

エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高!](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかる\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかる\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってでもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の同窓会](#)
- 第16回 [不老不死のお酒](#)
- 第15回 [アンチエイジング](#)
- 第14回 [女子力不足](#)
- 第13回 [仏のレッスン](#)
- 第12回 [母と子をつなぐ道](#)
- 第11回 [座敷わらし](#)
- 第10回 [夢のお告げ](#)
- 第9回 [犬に引かれて](#)
- 第8回 [生まれ変わり](#)
- 第7回 [お葬式の意味](#)
- 第6回 [不思議なご縁](#)
- 第5回 [生きるための勇氣](#)
- 第4回 [祖母の形見](#)

仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

第21回 四億年の引きこもり

BI 0 | m チェック | いいね! 0 | Tweet

日本蜘蛛学会の会員であることをプロフィールに書いているせいか、私のもとには、ときどきおかしな問い合わせが入ります。先日、女友達から早朝に電話がかかってくるや、

「もしもし真美さん? あのね、今朝起きてみたら、部屋に大きな蜘蛛がいるの。すごく足が長くてブキミな蜘蛛なの。新聞を丸めて叩きつぶしたいけど、怖くて近づくこともできないし……。どうしたらいい?」

と、いきなりまくしたてられました。

朝っぱら何事かと思いながら、眠い目をこすりこすり蜘蛛の様子を聞いたところ、足を伸ばしたときの全長は15センチぐらい。胴体部分は小さく、足は異様に長く、壁を這(は)いまわる姿は「まるで醜い子ダゴのよう」だといいます。私はすぐに納得して、

「ああ、それはアシダカグモといって、世界じゅうどこにでもいる平凡な蜘蛛よ。毒性も弱いから、怖がらなくて大丈夫。それに、『朝の蜘蛛は福が来る』ということわざがあるぐらいだから、早朝から部屋に来てくれた蜘蛛のことを、むしろ歓迎してあげたら?」

と言って慰めたところ、

「冗談じゃないわよ。私が蜘蛛に噛まれたらどうするの!」

と、かえって怒られてしまいました。

彼女は蜘蛛に噛まれることを心配しているのですが、アシダカグモは人間を苦しめるような強い毒を持っていませんし、そもそも攻撃的ではないので、こちらから先に手を出さない限り噛みついてくることもありません。

それどころか、家のなかをパトロール(徘徊)してゴキブリなどの害虫を捕食してくれる、人間にとっては実にありがたい生き物なのです。それを新聞で叩きつぶしてしまおうなんて、なんと罰当たりな。そう思ったので、

「アシダカグモが部屋に入って来たということは、つまり、あなたの部屋のなかに蜘蛛の餌となる虫がいるということです。どうしても蜘蛛を部屋から追い出したいなら、まずは、家

- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)



のなかのゴキブリやハエをしっかりと退治すること。家のなかに虫がいる限り、蜘蛛は何度でも家に入ってきますよ」

と、最後は少し脅(おど)かし気味に受話器を置いたのでした。

それにしても彼女に限らず、世のなかにはなぜこんなに「蜘蛛が嫌い！」な人が多いのでしょうか。

確かに「足が8本、目が8個」という外見は、慣れないうちはブキミかも知れませんが、実際に蜘蛛に噛まれたことがある人なんて、日本ではほとんどゼロに近いはず。にもかかわらず、多くの人が蜘蛛を毛嫌にするのは不思議なことです。

オーストラリアに生息するセアカゴケグモなど一部の蜘蛛を除けば、猛毒を持つ蜘蛛なんて数えるほどしかいないのですし、「世にも恐ろしい毒蜘蛛」と恐れられているタランチュラにしたところで、実際のところ、ほとんど毒性はありません。

そういえば、私の知人にはタランチュラを自宅で飼っているツワモノが3人もいて、

「タランチュラはいいですよ。犬のように散歩に連れてゆく必要はないし、金魚のように水を取り換える手間も いらぬ。食事数日から十日にいったん与えるだけで済むし、ともかく飼いやすいんです。上手に飼えば、メスは20年ぐらい生きますよ。どうです、真美さんも飼ってみませんか？」

と誘われます。しかし私は小型犬を2匹も飼っている犬好きで、むしろ散歩など「手がかかる」ことのほうに喜びを感じる人間。それにひきかえ、蜘蛛は名前を呼んでも反応しないし、「お手」をするわけでもないし、コミュニケーションを取りにくいというか、家族の一員になれる気がしません。

そう答えたと、

「何を言ってるんですか。コミュニケーションを取れない、会話も通じない。こちらが尽くしても知らんぷりをする。その冷淡さこそが、蜘蛛の魅力じゃありませんか。その点、犬などは従順過ぎてまったく面白みがありませんし、たまに人間に媚(こ)びる猫もまだまだ中途半端です」

とバツサリ切り返されてしまいました。

ちなみに彼らは3人が3人とも、飼っているタランチュラの機嫌を損ねて手を怪我したことがあるそうですが、「指先がブククリ腫れて二、三日は痛かったけれど、軽症だったので病院にも行きませんでしたよ」とのこと。

タランチュラの腹部には刺激のある毛が生えており、身に危険が迫ったときには足で腹部を搔(か)いて毛を飛ばすのです。その毛が刺さると、痛みや痒みといった症状が出るわけですが、それとても病院に行かなくて済む程度で終わることが多いようです。

実は、私が蜘蛛に興味を持つようになったきっかけは、あるとき家族が就寝中に蜘蛛に噛まれて顔をパンパンに腫らしたことです。

従来、日本(本州)にはこんな強い毒を持つ蜘蛛はいないのですが、おそらく暑い国へ旅行したときにトランクかコートのポケットにでも忍びこんだ蜘蛛が、日本までついてきてしまったのでしょう。

ですから私の場合は「蜘蛛が好き！」というわけではなく、むしろ一種の怖いもの見たさから始めた蜘蛛の研究なのですが、彼らから学んだことは少なくありません。

そのなかでいちばんスゴイと思うのは、蜘蛛は地球に住むすべての生命体のうちで最も古い生物のひとつで、およそ4億年も昔から今の姿で生きているということ。

蜘蛛全体でみると、アシダカグモのように自分から歩きまわって餌探しをする「徘徊型」よ

りも、巣を張ってじっと餌を待つ「引きこもりのエコ型」が多いことが、彼らが4億年も生きながらえてきた理由かも知れません。

引きこもってればエネルギーの消費量は少なくてすむし、敵に遭遇する危険も少ないわけですから。「エコ」という言葉がひとり歩きしている昨今ですが、ほんとうにエコについて考えるならば、蜘蛛は素晴らしい先生だと思います。

地球の誕生が46億年前。

カンブリア爆発(生物の種類が突然爆発的に増えた現象)が5億数千万年前。

蜘蛛の誕生が4億年前。

ゴキブリの誕生が3億年前。

2億5000万年前(ペルム紀末)、地球上の生物の90~95%が絶滅。

サルが二足歩行を始めたのが、今からおよそ500万年前。

以上はあくまでも大雑把な数字ですが、この数字をみれば、女友達も「丸めた新聞で蜘蛛を叩きつぶそう」という気持ちを変えるのではないのでしょうか。

◀ [第20回 年齢を隠したがる人たち](#) [第22回 美人病にかかる\(前編\)](#) ▶

山田 真美 (やまだ・まみ) プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士(高野山大学)。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。

1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学(豪)でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェロースhipを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。

山田真美 公式ホームページ: <http://www.yamadamami.com/>



58歳、株で退職金が3割消えた

なぜ多くの人が安易に株に手を出して退職金を失うのか? その秘密とは。 kabunogakkou.comへ進む



① ×

▲このページの先頭へ



[永代供養墓 密厳霊塔](#)
[しいなまち みとら](#)
[こんごういんキッズ](#)
[メディアで紹介](#)

[ぶつぶつ雑記ブログ](#)
[唱えてみよう!](#)
[たいけんしてみよう!](#)
[東京お寺めぐり](#)
[ばばばのレシピ](#)

[真言宗について](#)
[仏教いちねんせい](#)
[まんが 小坊主くん!](#)
[ぶつ仏クイズ](#)
[ふしぎな密教法具](#)

[金剛院イベント情報](#)
[金剛院NewS](#)
[金剛院について](#)
[金剛院の四季](#)
[地図・アクセス](#)

[メールを送る](#)
[おすすめリンク集](#)
[バックナンバー](#)
[サイトマップ](#)

© 2002-2016
真言宗豊山派 金剛院

東京大学と5年をかけて共同開発

臨床試験で10種類以上の病気や症状への改善効果を確認/今だけ無料で資料配布中 brolico-research.jpへ進む

